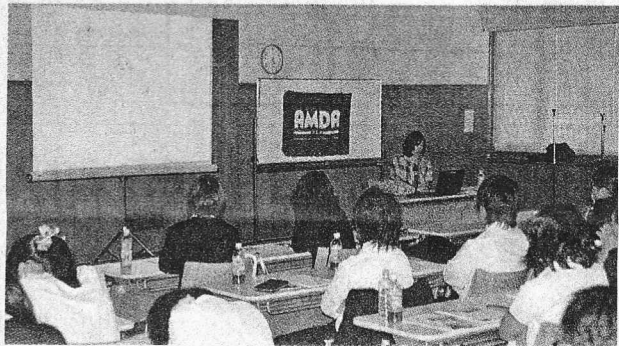


ニーズ把握した対応必要

岡山のセミナー
AMD A 医師ら 被災地支援で報告



被災地支援の課題などが報告されたセミナー

宮城県南三陸町で心のケアに当たった札幌千絵心理士は、アルコール依存や心的外傷後ストレス障害（PTSD）になると報告。「いつでも相談を受け付ける体制を整えることで、周囲に支えられているという安心感を与えることが大切だ」と訴えた。

（船越元洋）

東日本大震災の被災地支援に取り組む国際医療ボランティア・AMD A（岡山市北区伊福町）と県立大大学院（総社市窪木）主催の「災害セミナー」が17日、岡山市内で開かれ、AMD A所属の医師ら3人が支援の課題などについて報告した。

岩手県大槌町などで医療活動に従事した高岡邦子医師は、全国から医薬品や機材が集まったが、情報や調整不足から必要な場所、時間に届かなかったケースを紹介。「刻々と変化する現地のニーズを把握した、的確な対応が欠かせない」と、コメディネート業務の重要性を指摘した。

約100人が参加。